

雪なんて、
大嫌いだ。

心底イヤになる時もある。
でも、雪がなかったら、
北海道は北海道じゃなくなる。
雪と離れない人生ならば、
いっそ楽しんでみようと思う。

01



空港用の国内最大級フラッグシップモデル。フライトの妨げにならないよう、時速40kmでの高速除雪が可能。豪快に雪を吹き飛ばす様は一見の価値あり。



04

ロータリ除雪車
HTR55

主に歩道の除雪のために開発された、最大除雪幅1m級の小型車。大型機種と比べると、どこなく可愛らしいデザイン。なんと普通免許で運転できる。



05

凍結防止剤散布車
NWS25SS5PU

スノープラウ(除雪のための板状のもの)などを装着することで除雪作業も可能。除雪した後の帰路で凍結防止剤を散布する、といった作業で使われる。



02

ロータリ除雪車
HTR608

HTR801と同様、空港で活躍する高速ロータリ除雪車。801と比べるとパワーはやや劣るが、それでも時速30kmでの除雪作業が可能となっている。

03

ロータリ除雪車
HTR308A

運搬排雪から、山間部や市街地の道の広さを確保する拡幅除雪まで。幅広い除雪作業に応える中型サイズの主力機械。最大46mの投雪が可能となっている。



06

ロータリ除雪車
HTR268L

排雪ダンプトラックと同一車線を走りながらの積込が可能なため、交通の流れを妨げない。排雪口の「ショータ」がトラックの荷台を自動追従する機能も。



08

凍結防止剤散布車
NWS60BC5

高速道路用の凍結防止剤散布車。散布剤が固まってしまうリスクの低い、ベルトコンペア式を採用。散布円盤を使って散布していく。



09

軌道ロータリ除雪車
HTR230R

線路を走る小型ロータリ除雪車。2軸ボギー台車上に台枠とロータリ除雪装置を備えており、台車部分は360度回転する。小回りがきく一台だ。



10

軌道ロータリ
HTR400R

機動性の良さとパワフルさを両立。線路を最速な速度で除雪していく。ちなみに除雪装置は取り外し可能。冬季以外はモーターカーとしても使える。



WOOD STOVE LOVERS

CROSS TALK - 3 people

APRIL
 メアラシケンイチ × 田中裕基 × 舛森拓郎



薪ストーブのある暮らしを提案する工務店代表。

薪ストーブを知り尽くしたプロフェッショナル。

薪ストーブに取り憑かれたアートディレクター。

炎を愛する3者が、奥深き魅力を語る。



薪ストーブとの関係

田中(以下た)：もともと薪ストーブって旅先の宿とかでしか接点がなかったんですが、会社に設置してみたらすっかりハマってしまって。当社は道産木材を使っているので、「森から薪へのつながり」という点も魅力でした。便利さが行き過ぎた時代だからこそ、この不便さを感じます。湿気を帯びたようなあなたたかさがいいんです。

舛森(以下ま)：FFストーブのように温風を出す暖房って変に乾燥しますよね。僕はお客様に「薪ストーブはお風呂」。他はシャワーみたいなものって説明します。遠赤外線効果で人の内部まであたためるので。

た：なるほど。舛森さんは薪ストーブのプロとして、その魅力ってどう捉えています？

ま：家中で炎が見えるところですね。家で焚き火をしている感覚に近い。火って人間が一番最初に発明した「道具」なわけで。そういうアーリミティブなものに惹かれるDNAが、僕らには組み込まれているんじゃないかな。それと、いわゆる「1/fゆらぎ」の心地よさもありますね。メアラシくんはどう？

メアラシ(以下メ)：実は薪ストーブって好きじゃなかったんですよ。というのも、実家の昔から薪ストーブを使っていて、それもいわゆるブリキのダルマストーブ。物置にあって、暖を取ったり、トウキビや枝豆ゆでたりするような、金然オシャレじゃないやつ。同級生の家でそんなの使っているところなんてなかったし、恥ずかしかったんですよ。

ま：家にあると、脛にニオイがつくしね。

メ：そうそう。で、数年前に実家を建ててる際、周りの耐めもあって薪ストーブを設置したんです。それも母屋ではなく離れに。生活空間に置くと手入れが大変なことはわかっていたので。

た：ある意味、トラウマになっている薪ストーブを置いてみてどうでした？

メ：求心力がありますね。家人が遊びにきてても、みんな暖かな母屋を出て、薪ストーブに集

メアラシケンイチ
KENICHI MEARASHI

1972年札幌市生まれ。(株)エイブルのクリエイティブディレクターとして、北海道を中心に全国でプランディングディレクションを行なう。平日は街の中、週末は森の中で暮らすデュアルライフスタイルを実践中。

✉ mearashi_kenichi

ま：くるんですよ。

た：ああ、わかります。僕は朝7:30に出社すると、薪ストーブのある部屋へ直行。火をくべて、そこで仕事するのがルーティーンなんですが、自然と社員が集まってくるんですよね。

いかに付き合うか

メ：住宅に薪ストーブを置くって贅沢の極みですよね。

ま：ええ、かつては100%実用品だったけど、今は完全に嗜好品。実は薪ストーブの販売台数って北海道は下から数えて2番目。トップは東京なんですよ。

メ：暖房器具というより、もはやインテリアですよね。かたや北海道は暖房って死活問題だから、まずは普通の暖房機をつけますよね。

た：それで言うと、当社は災害時も想定して薪ストーブを提案しています。万が一の停電時にも暖をとるのは大きいので。ただ、薪ストーブと他の暖房を組み合わせるケースがほとんどかな。100%薪ストーブっていう方もいるけど、レアですね。

メ：ちなみに、薪ストーブって「燃費」の観点はどうなんでしょう？

ま：うーん、一概に言いつらうですね。暖房や調理といった用途がいくつもあるし。あとは使い方によっても大きく変わってきます。

た：お客様の中には、「灯油より安い」という方もいますよ。いかにコストを抑えて薪を調達できるかがカギですよね。例えば、建築関係の知り合いから廃材を譲ってもらうとか。

メ：そういう選択肢があれば、薪ストーブはコストの面でもアリですよね。

ま：それなら、森のメンテナンスの際に切られた間伐材を薪に使えるなら、理想ですよね。

た：そういう選択肢があれば、薪ストーブは燃焼味のひとつですが。僕は「焚き付け」を使はずに、新聞紙で着火させることにこだわってますね。社員が焚き付けを買おうとしていたんで、ダメ出ししましたから(笑)。

田中裕基
HIROKI TANAKA

1972年札幌市生まれ。(株)三五工務店、(株)ナカシタベカではあらゆる業務を担当。プライベートではMTB仲間と共に森林整備ボランティアを主軸。

✉ takuro_masumori

メ：僕は焚き付け、全然使うけどなあ(笑)。ちなみに、キャンプだとマグネシウムを使って火をつけるのが流行ってますよね。あれはあれでカッコいい。でも、薪ストーブだとかに早く着火させて暖を取れるかが大事だから、カッコつけていらっしゃないってのはありますよね。

ま：確かに！

薪ストーブで何をする？

た：メアラシさん宅の薪ストーブはどこでしたっけ？

メ：バーモントキャスティングです。アメリカ製の鉄物。マニュアルで、面倒くさいやつ(笑)。逆に言うと、いじる楽しみがある。最初はオートマなやつがいいなと思ったんですけどね。

た：田中さんの会社に僕が設置させてもらったのはベルギー生まれのドブレ・ヴィンテージ35でしたよね。ミッドセンチュリーぽいデザインと暖かさを両立した、良いストーブです。

た：これから薪ストーブを導入してみたい！という人にアドバイスするなら？

メ：まずは目的を明確にするといいですね。

ま：確かに。お客様にいきなり「どの薪ストーブがおすすめですか？」と質問されると困っちゃうんですよね。火を見たいのか、暖まりたいのか、調理をしたいのか。それにふさわしい選択肢があるから。あ、もちろん自分たちの目的がわからなくて大丈夫です。まずは、僕たちのようなプロと話をしながら見つけていくのも良いと思いますよ。

た：ですね、気軽に相談してほしいですね。

ま：最後にひとつアドバイスすると、カタログだけ選ばないほうがいいですよ。あれって、いい数字を出せる条件下での数字だったりするから。

メ：さすがプロ…(笑)。